

カ何程度まで進捗シタカハ就チハ知ラズガ

今猶

兩者ハ未ダ予備的段階の出テハ

會談域ヲ

ガルモノナリト

着了解シ居レト答ヘタリ。

依テ、余ハ

於テ

免ニ角、

一社故未彼ノ臆測ハ過去ニハ平當ナルカモ

知レタガ現在則ハ兩者既ニ實際ノ會談ノ領

居リ、而モ今ヤ帝國政府ノ

域ノ入リテ答ヘタリ。更ニ帝國政府ハ

既ニ日取<sup>後的對</sup>提<sup>示</sup>ヲ以テ

會談<sup>最後</sup>ノ段階ニ入リタル狀態ニ答ヘ、尚右

次等ハ、米國側ニ完全ニ

此事實ヲ合衆國ニ對シテ完全ニ闡明ナリ

置テリト

附言セリ。

余ハ、語ヲ續ケ、~~汝ノ如ク~~ 助キ英也

ガルモノ

首相ハ

~~首相ハ~~

市長佳権午餐會

下場演説ニテ、日米交渉ノ経過ニツキテハ、  
孰一知セザルモ、

内容ハ知らズガ、日本ニ対シテ敬言告ヲ發スル者アリ  
若ル由ナルモ、氏トシテハ、其ノ謂フ所ノ

ト述ベテ、聞ク、彼が述ベテ、何タルカ  
ナスヨリモ

ヲ知らズシテ、か月迫ラサル代リニ、彼批語  
詳カニシテ、之ガ

日曠ニ理解セシトシテ、  
解決ニ協力セシトシテ、  
解決ニ協力セシトシテ、  
解決ニ協力セシトシテ、

一層日米交渉ニ由ルハ、  
但シ、日米交渉ハ今日ノ如キ段階ニ  
在ルヲ以テ、又米英

併シ、日米交渉ハ今日ノ如キ段階ニ  
在ルヲ以テ、又米英

日米交渉ハ今日ノ如キ段階ニ  
在ルヲ以テ、又米英

日米交渉ハ今日ノ如キ段階ニ  
在ルヲ以テ、又米英

日米交渉ハ今日ノ如キ段階ニ  
在ルヲ以テ、又米英

英の参加は、勤王の或る反対する何事

（三）  
（三）

十、ト述へ置て、  
音心嚮も持たず、

帝の政府は、其の最終據安木、起、昔十年、

敢てシタル、次、ヤ、ナル、日、諒明、

能く取大、讓、歩、ヲ、爲、サ、ル、事、ハ、今、ハ、説、明、

米、国、側、ハ、反、對、ナ、ル、ベ、ク、シ、テ、

我、ハ、合、衆、会、が、其、中、に、何、等、反、對、ス、ル、事、

ヲ、見、出、カ、シ、得、ヌ、ト、モ、ウ、思、見、ヲ、持、ツ、ル、所、ナ、ル、

余、一、週、間、乃、至、十、日、以、内、ニ、協、定、ヲ、調、印、可、能、

置、テ、リ、。

ナ、リ、ト、述、ベ、ル、。 其、中、不、存、ニ、シ、テ、合、衆、会、

が、其、等、ノ、條、項、受、諾、ヲ、拒、否、ス、ル、ハ、會、談、ヲ、

無、益、ナ、ル、ベ、ク、我、が、内、情、ハ、一、決、定、

妥、結、無、益、ナ、ル、ベ、ク、我、が、内、情、ハ、一、決、定、

此、上、要、延、不、ル、事、ヲ、許、サ、ス、。

余ハ此時於日米日英關係ノ危機

突破スル為目下畢生ノ傾注シ居ル旨

指摘セリ。我々此ノ交渉無用論アルモ之ヲ

制シテ漸ク交渉ハ繼續ニツクアリ。

存スルニテハ。會談ハ是等ノ徒黨ヲ抑止シ後

キヤット。続カレキニホルヲホト。

是算理由未。此上少シテモ遲延也

ル事ハ全ク不可能ナリ。

早急ニ解決スルニ云フ事ハ一ニ懸心ナリ。英國

方法モアルが爲メハ先方政府ニ於テモ此ノ辺

及ビ合衆國ノ態度如何ニ在ルト云ハ云ヒシ

ノ事情ヲ充分ニ考慮シ交渉ノ急遽成立ニ

テ彼ノ母心此ノ莫ニ折角速慮ヲ拂ハル。早

速ニ

局ヲ

盡力アリ！ 務ト成ルヘ置テ。

期ニ協定ヲ遂ゲルベク協力ナルベク提

安ホシタリテ可也。

如上

事能

急迫也所以

有様ニシテ余ノ情勢ノ急機ヲ捕

縛成ラズルニ同

大使ハ余ノ言ヲ非難ニ非音心深ク直傾キ彼

大使ハ余ノ言ヲ非難ニ非音心深ク直傾キ彼

右ヲ傾聴シ初メテ事能ノ莫ニ逼

迫セルヲ痛感セルモノ如ク、右ヲ早速

述べテ、彼ハ右合談ノ報モリ、其政府ニ進附

報告スベク、自今又迅速ナル手結ノ為

ニ、彼自身ハ速ニ解決ヲ齎スベク、最善

ノ努力ヲ試ミルヘシト成ヘタリ。

テカヨクハ余ニ告ガレ。

三、右ノ如ク米

今猶交渉

未ダ

カイヲテ、余兼ニ政府ハ湖ノ全談ハマア備的段

ヤニ孝人居ル節アル處、右ハ

階ニアル、我々ハ未ダ意見ノ交換ヲ行ツル

ルニ過ヤカイト考ヘテ、其ノ苗観ガナルヲカ

止ル

電

フシテ貴使報

告ノ

ルースベルト大統領ノ言ハ

表書ニテ

トナル事ヲ望ム云々ノ

此ノ旨ヲ豫備的ニ

交渉

トナル事ヲ望ム云々ノ

ガト具ノ余議ノ基礎

トナル事ヲ望ム云々ノ

トナル部分

ニ徴スル明白ナリ

我方ノ

的段階

本島ノ我々ノ限リ此ハ最後ノ

ナルニモ

米側が依然下シテ斯カニ悠長

緩慢ナル態ヲ持スルハ

ナリ。就テハ

ヲ取ルト云フ事ハ誠ニ不吾チナリ

ニ於テハ米側ヲ啓蒙シ速ニ本件ヲ結ニ

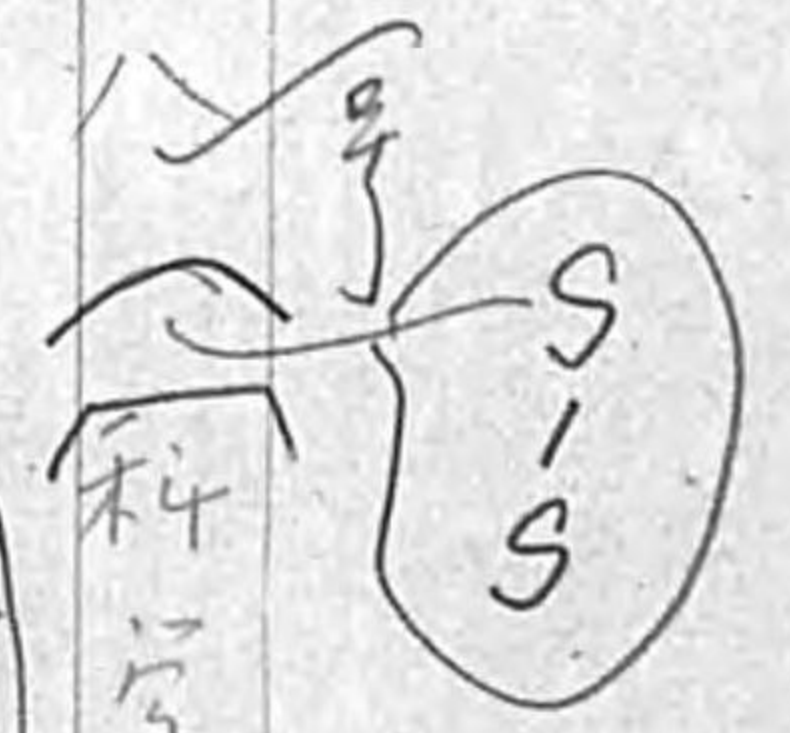
意ヲ決スルハ抑居テ大奮闘アラシキヲ切望ス

ルニ早急ナル時期ニ協定ヲ成事セシムル

金力ヲ盡スル事ハ余ノ熱心ヲ示スル所ナリ

註 \* J D 六第

六二二



第二四二九三一九四号

\*\* 入手心得

~~集録~~

~~(D) 海子 二番 四番~~

~~一九〇五年十一月廿三日(廿七)~~

8593 D(10) Items " 書物番号二五九三号 Skid by KUROSAWA

解 第十一号

Translator by J. Hattori.

自東京宛マシントン 一九四一年(昭和十六年)十一月五日(カ)

第七三六号 (極秘)

(紫色-CA)

本協定ハ諸般ノ關係上本月二十五日迄ニハ調  
種ノ狀勢ニ由リ本協定ハ調印ノカメノ全キノ手筈が本月

印ノ萬般ノ手筈完了スルコト  
二十五日迄ニ完成セラルベキコトが絶対ニ必要ナリ  
ナル處ニ在ハ

至 難ハ命令ガアルコトヲ認ムル併シ本狀勢下ニキリテハ  
ハ邊々得又モノチアリ 何卒カ事ヲ十分理解セテ日米

國交ノ破綻ヲ 付、右等ト申了了承上、  
關係ガ混亂狀態ニ没リテモ故フコトニ努力ヲ裁キ度ト

申力カアラムコトヲ 怨弱ス。 大決意ニテ以テ充全

大ナル決意ト無限ノ努力ヲ以テ為サレシカニ私ハ願フ。

右 本通報ハ嚴ニ貴下十人ニ保カレ康シ  
大臣限リ、由合ニ迄。

子由三三三

海軍譯譯二十五年

(15/47)



On 25th 10  
Dr. 25th 10  
C. I. K. by KUROSAWA

by J. Kawano

東京

院

ワシントン

克

一九二一年 / 昭和十六年 / 十月五日

(紫一CA)

第七二五号

往  
一、~~電~~第七二五号 / 十月五日 / 日米交渉 / 此の如く  
於て決定ヲ見たり。

弗対案ハ本五日ノ前  
就テハ、中興大使ハ前電  
趣旨ヲ体シ折衝ヲ  
開始サレ度シ。

從來ノ経緯ニテ  
從テ  
言ハハ

二、差多リ / 十月二十日 / 採案 / 我方親善

九月二十日 / 採案 / 新規会談ノ基

トシ交渉ヲ進ムルコト  
期待ニ  
米國側ノ  
難

副  
推察セルニヨリ  
多心速ニ取纏ム  
見地  
ヨリシテ

我方提案 ~~案~~

杜覽 第七二六号 中ノ ヲ 辨

提示スルコト 新 河ト 存セシム  
当方ト 案ハ 宜ハ  
事案 未 例 提

米 業中 形 成 表 明 人 我 方 認 成 得 ナ 案

莫 多 多 マ ル モ  
便 宜 上 又 兼 進 行 上 先 甲 提

先 づ 提 示 セ シ ト ス ル モ ナ リ  
就 テ ハ 右 趣 旨

其 中 例 之 説 明 同 時 二 杜 覽 ガ 七 二 五 号 ノ

細 得 以 テ  
同 案 ナ リ

而 且 未 案 得 限 短 期 同 様 之 案 亦 ナ 案 提 案

各 結 方 極 力 申 書 回 力 ア リ 度 之  
ソ 案 諾 セ シ 案 採 最 善 ヲ 盡 サ シ 案

三、 案 中 未 案 例 之 推 案 亦 之 對 之 案 承 知 案  
餘 之 難 色 ナリ

年 々 提 案 之 結 案 判 情 不 可 免 ナ ル コト 明 案  
白 ト ナ リ 案

十 五 日 我 方 之 提 案 提 案 提 案 B

際ハ、且取後、局面打開策トシテ、乙案（往電）<sup>\*\*\*</sup>案

~~案~~ 七ニテ乎、~~通~~（シ）~~持~~中々案向方  
提示スル意、嚮向ナルニヨリ、甲

此依身、~~案~~案、~~対~~スル米例、態度ヲ成ル  
実キ止メ本省宛、~~報~~通知アリ、~~高~~乙

連、~~確~~キ、~~事~~方、~~即~~通知アリ、~~提~~至  
提示スル際ハ、~~必~~不豫メ、~~ア~~リ度シ。

ヲ米例、~~二~~推テ、~~前~~、~~即~~通報、~~イ~~リ度シ。

只前愛、~~之~~、~~此~~、~~是~~、~~帝~~國政府ノ最後ハ  
案ナリ。時日極大、短ク、~~事~~態頗心切迫

平、~~信~~、~~時~~ハ、~~推~~テ、~~即~~通報、~~刑~~事、~~ハ~~、~~甚~~カ、~~表~~表  
絶対ニ遷延ヲ許サザンニ付、~~其~~ノ、~~三~~テ

此、~~絶~~對ニ、~~許~~サザンニ付、~~其~~ノ、~~三~~テ  
此、~~重~~テ申進ス。

上、~~最~~善シ、~~畫~~ナシ、~~一~~、~~此~~ノ、~~点~~、~~ハ~~、~~米~~、~~ト~~、~~支~~、~~張~~、~~調~~、~~取~~、~~ル~~

尤モ、~~一~~、~~タ~~、~~イ~~、~~ム~~、~~リ~~、~~ミ~~、~~ツ~~、~~ト~~、~~レ~~、~~ヲ~~、~~附~~、~~シ~~、~~、~~、~~若~~、~~ク~~、~~ハ~~

又、~~先~~方、~~時~~、~~同~~、~~ノ~~、~~制~~、~~限~~、~~カ~~、~~ア~~、~~レ~~、~~採~~、~~テ~~、~~又~~、~~ハ~~、~~此~~、~~ノ~~、~~採~~、~~案~~

如、~~最~~後、~~通~~、~~牒~~、~~、~~、~~的~~、~~態~~、~~度~~、~~ヲ~~、~~取~~、~~ル~~、~~ガ~~、~~如~~、~~キ~~、~~ハ~~、~~之~~、~~ヲ~~

~~、~~、~~最~~後、~~通~~、~~牒~~、~~、~~、~~的~~、~~態~~、~~度~~、~~ヲ~~、~~取~~、~~ル~~、~~ガ~~、~~如~~、~~キ~~、~~ハ~~、~~之~~、~~ヲ~~

米側 <sup>ニシテ</sup> 本案受諾 <sup>ヲ切望</sup> 且 <sup>ニシテ</sup> 友好的  
 米側 <sup>ニシテ</sup> 受諾 <sup>ヲ切望</sup> 且 <sup>ニシテ</sup> 友好的  
 態度 <sup>ヲ示サレ</sup> 候 <sup>ハ</sup> 宜 <sup>シ</sup> 也 <sup>ナリ</sup>。  
 手書 <sup>ノ</sup> 趣 <sup>意</sup> <sup>ハ</sup> 明 <sup>ク</sup> 示 <sup>ス</sup> べ <sup>シ</sup> 也 <sup>ナリ</sup>。

又 <sup>ハ</sup> 甚 <sup>ク</sup> 必要 <sup>ナ</sup> キ <sup>ニ</sup> 付 <sup>テ</sup> 別 <sup>ニ</sup> 除 <sup>ク</sup> サ <sup>レ</sup> タ <sup>リ</sup> 也 <sup>ナリ</sup>。  
 往 <sup>ル</sup> <sup>ニ</sup> 向 <sup>テ</sup> <sup>シ</sup> 候 <sup>ハ</sup> <sup>ニ</sup> 示 <sup>ス</sup> べ <sup>シ</sup> 也 <sup>ナリ</sup>。  
 往 <sup>ル</sup> <sup>ニ</sup> 向 <sup>テ</sup> <sup>シ</sup> 候 <sup>ハ</sup> <sup>ニ</sup> 示 <sup>ス</sup> べ <sup>シ</sup> 也 <sup>ナリ</sup>。  
 往 <sup>ル</sup> <sup>ニ</sup> 向 <sup>テ</sup> <sup>シ</sup> 候 <sup>ハ</sup> <sup>ニ</sup> 示 <sup>ス</sup> べ <sup>シ</sup> 也 <sup>ナリ</sup>。

註 \* JD-1 第六三四八号 (SIS 第六三四三〇-三三三三)

\*\* JD-1 第六三四九号 (SIS 第六三四三三-三三七五)

\*\*\* JD-1 第六三四〇号 (SIS 第六三四三三)

2543 D (8)  
Item 9

Checked by  
AKRASHA JB

Translated by Seisaku OHTA

英債 東京 元

手債 ワシントン宛

日 1944年昭和十九年十月四日

紫色 (CA) (至急)

甲 以牙七二六号 (四ノ第一号)

提議 A

本案ハ

方

一 此提案ハ九月二十日、我方提案ヲ

既往ノ 経過ヲ判明セシ

側

基キ交渉ノ結果 明瞭ニ米日ノ希望ニ出ル

限リ「シート」ニ趣旨ヲ以テ

セル

カヲ懸シ、  
吾々が如何ニ其レヲ  
我中修正

案ニシテ

方

右記通

最後ノ通牒ナリ

我方主張ノ決

和ヲテキレタリナリ

(一) 通商無差別問題

到底

案ニテ妥結

此件ハ本月九月二十日、我方提案ヲ

見込ナキ際ハ、

應ゾナリト見スル事ガ萬一  
まじかる事ハ、次ノ由ヲ挿入

セラルルモノナルニ  
於テハ

無差別原則カ全世界ニ適用

日本政府ハ太平洋ノ全地ニ此原則  
ヲ施行スル準備ヲ行ハルコトヲ承認ス  
挿入ス。

ハ中華民国ノ風俗ニ全世  
解釋及履行

三國同盟ノ理解

我方ニ於テ  
權ノ擴大スル

因ナキコトヲ更ニ明瞭ニ  
從來屢々誤

有意味ナキ事ヲ貴殿ハ  
明セシ如ク

風情ニ  
歐洲ノ太平洋

大ヲ  
希  
十ニ首ヲ鮮明ナル度ニ

松張有テ  
度ノ望ヲ

形手數度説明  
更ニ其ヨク説明シテ

明瞭ニ  
事ヲ示ス

Translated by:  
WAKABAYASHI, Yoshio

~~秘~~ ~~密~~

東京 ~~宛~~ 華盛頓 宛

一九四一年十一月四日

~~紫色~~ (CA) (至急)

~~分~~ ~~送~~ ~~南~~ 七二六号

(四ノ弟二部)

(三) ~~軍隊撤退~~ ~~關~~ ~~問題~~ ~~矣~~

本件ハ左ノ通リ ~~緩和~~ ~~和~~ ~~ス~~  
我々此ノ事項 ~~關~~ ~~ハ~~ ~~次~~ ~~ノ~~ ~~如~~ ~~ク~~ ~~條~~ ~~款~~ ~~ヲ~~ ~~調~~ ~~整~~ ~~ス~~

(A) ~~支那~~ 軍事變動以來 ~~此~~ ~~國~~ ~~ニ~~ ~~於~~ ~~ケ~~ ~~ル~~

~~軍隊~~ ~~駐~~ ~~屯~~ ~~及~~ ~~ビ~~ ~~撤~~ ~~退~~ ~~矣~~

~~中~~ 民國ニ派遣 ~~ス~~ ~~日~~ ~~本~~ ~~軍~~ ~~隊~~ ~~ハ~~ ~~用~~ ~~華~~ ~~間~~ ~~ニ~~ ~~和~~ ~~平~~

樹林後 北東 蒙亦有國境地域 華 及 海南島  
二箇年日華間平和成立後ニ

東地駐屯 撤退ハ  
爾餘 他八軍隊ハ撤退ハ  
經過スル迄 撤退セザルベシ

平和成立ト同時ニ 日本及ビ他國ニヨリ  
退小 和平樹立ト同時ニ

治安 維持  
海員行セラルベシ 其平和秩序維持

為カニ箇年一期間内ニ 海員行セラルベシ  
以內

「適當期間」ニ付 多量問アリク場合ハ  
米國當局ガ若シ貴官ニ「適當期間」

間ニ付テ 質問スルガ如キ事トナラハ、カノ期間ト  
概ネ 自途トスルモノナルヲ以テ 慮  
二十五年ヲモテ 包含カモ知レナイモノナラハ 漠然ト答

西州スルモノトス

(B) 佛領印度邦ニ於ケル軍隊駐

兵及 撤退



日本政府ハ佛國ヲ領有印度支那ノ領  
主權  
土印保全ヲ尊重ス、  
和平ガ樹キヤルカ

或、日華事變が成功的解決ニ達スル

現ニ 佛領印度ニ派遣セラレタル軍隊  
公正ナル平和増進ニ力又ハ支那事變ニシテ解決スル  
現在駐屯セル日本軍隊ハ撤退スベシ  
ニ於テハ之ヲ撤去スベシ。

(四) 原則トシテ、<sup>之ヲ日本</sup> 日本及中合衆國トシ

間、<sup>毎結末</sup> 到道トシ正式提案ノ草稿ニ此ノ事項ヲ

挿入スルコトヲ避ケルヲ危惧スルモ、  
了解集タルト又ハ其他ノ聲明及トク問ハス  
湯調提案或ハ何カ他ノ權ヲ陳述ト稱セラルルモ  
包含セシムルコトハ極力回避スルモノトス。

紙釋 四十一年十月四日

東京ワシントン一九四二年十一月四日

ワシントン (CA) (至急)

ワシントン (四一三部)

二 説明

(1) 勿論、我々が通商に非~~ず~~無差別待遇を考慮

勿論

アムモ、我方ハ

スルニトシテ引~~レ~~地理的距離ノ問題カ~~ハ~~。

従来ノ

主張ハ之

訂正

年ヲ、我々此進此ノ線ニ沿~~フ~~我々要求ヲ改修

原則

ン事、無差別待遇問題ヲ世界の基礎ニ置

キヤルモノナリ

中ニ向~~レ~~カノ国ガ

米政府ノ覺書~~ニ~~、彼等~~ハ~~實際上

所定ノ

政策ヲ取~~リ~~

他ノ方ガ別ノ

一國ガ新興ノ政策ヲ採擇~~シ~~、特定地域ニ先

テ他~~ノ~~補足的政策ヲ採~~ル~~ニトシ、実行シ易キ

ニトナ~~シ~~ト~~シ~~、~~右~~ニ徴ス~~ル~~モ

ニトナ~~シ~~ト~~シ~~、~~右~~ニ徴ス~~ル~~モ、此ノ聲明

何事か  
十カレハ  
判断シテ、私ハ彼等が此ノ條件ニ反対スルモノトハ  
從フテ本件ニ付テハ之ニテ容易ニ合意  
信ジナイ。亦我々ハ此ノ件ニ周ニ容易ニ解ト達シ  
成立スルモノト信ス。  
得ルモノト思フ。

付テハ、屢々貴電ニ依  
(2) 三國同盟ノ問題ニ關シ、貴下ノ種々ナル傳達  
ハ、米側ハ我方提案ニテ大体  
ノ結果、私ガ信カレルニテ、新ヨクハトハ、合衆國ハ我々諸

提議ニ満足スルニ付、  
居ルヤノ趣ナルニ付  
従テ若シ我々が我々ハ、然ラ

自衛權ノ解釈ヲ駁折シテモ、我々が我々ハ、然ラ  
明確ニシテハ、本件ニテ字結ヲ見ルベキモノト信ス。  
テ後ソテ我々が我々ハ、一層明確ニサハスモノトハ、我々ハ

南米諸  
此ノ莫クモ我々が我々ハ、同業ナルニ付、  
安結スルニ付、  
確信スルニ付。

11533361901011  
秘  
5)

Translated by: WAKABAYASHI, Yoshio

東京電 華盛頓宛

一九四一年十一月四日

紫色 (CA) (至急)

海軍 七二六号

(四ノ四部)

(三)

撤兵問題ハ了見ハ可能性ニ於テト最モ  
妥ナルヤモ知サルモ、我方ハ米側ガ

困難ナルモトハ官、思考ス、シカレバ、合衆國

不確定

が限定セザル地域ノ我ガ軍隊駐屯ノ在程

直反對スル事、賈ニ隨金ニ、我ガ目的ト

ヲ中ハ占領地域ヲ換ヘ、官吏ノ異動ヲナシ以テ

其、  
解カントスルモノナリ。  
疑惑ヲ掃却セシムルカキ

我方之  
撤兵ト稱ス。并假令規則あり

例外トスル方米圓ノ

ハ軍中ノ古據ヲ除外スルカキ古ノ取リテ右  
希望ニ副フベキ也。結局ノ所

衆團ヲ歡喜セシムル中前ノ解説

此ハ問題トナラサルベシ。駐兵

尚古據ノ期間ニ

照シテハ明瞭ナル陳述ヲ為スルナク何時強ヒラシ

常ニ曖昧ナル言辞ヲ以テ

表ハシ来リタル也。貴使ニ於テハ不徹底

来リ。貴使が出来得ル限り復素

婉曲ニ示ス

然モ快高ナリ言辭ニテ無期限ニ駐兵

駐兵ニ非ル旨ヲ印象ツケル也

百據ハ永久ノ百據ヲ意味セサルモノナリ

結論ニ彼等ヲ道ヲカキ婉曲ニ述ベ且ツ金ヲ

盡努力相成はし。之ヲ要スルニ甲一案ハ

要領ノ摘要トシ提議ナ

ニ関シテハ全面

ハ他ノ提案ニ就テハ三案中、二案ヲ先立  
白ニ米側主張

ヲ合衆國ノ要求ヲ受ケ得ルモノカ  
駐兵

及ビ撤兵問題ニ付テモ最大限ノ  
力及ビ

ハ既ニ最後的出来得ル範圍内ハ讓歩ヲ爲サ  
五口之ハ突ニ

四月ノ間中國ニ於テ一心ニ戦ヒ来リ、  
如何ニ困難ヲ關シテ

如何ニ莫大ナル犠牲ヲ吾人ニ加ヘ  
彼等又之ヲ承知セリ、然レバ

此ニ關連スル彼等ノ主張ハ  
西望スル意見

チナケレバトカハ様コノ事、實見ヲ彼等ハ知ラナ  
ナリシナルベシ。免モ角此ノ突ニ関シテ以上ノ讓歩ハ

ケレバナラナイ。如何ニ事情  
國內事情ニホ

的ニ不可能ナリ。依テ  
コレニ關シテハ、モ以上ノ妥協ヲ爲スルコトヲ不可能ナリ

精ニ所努力カ上ニ米側ヨリテ右ヲ  
全カク盡シ、チノ思ハ合衆國

速ニ交渉ニ妥結ニ着手ス切迫ス  
諒解セシメ、謀努力カ  
小官ト貴

官が火急ニ了ル解ニ到達ニ得ルヲ云フコトヲ  
望ム且チ新ルニ成ルヲアル。

翻譯 甲午年十一月四日

希

2593 D (7) Item 8

Checked by  
Kotaro KUROSAWA.

秘 密

東京ヨリワシントンニハ

一九四一年十月四日

此系(で)也 (至急)

第七五号 (三ノ第一部)

早(註2)

往電 第七二二ニ関シテ

破壊頻シ

一、物テ日本米軍關係ハ其ノ先端ニ達シテ外ハ吾国民

信ヲ置カザルヤ

ハ國交何時ニ調整シ得ル可能性ニ於テ信令ヲ

ニナリフアリ。國策ニ方針ヲ審議スル

朱ヒヨリアリ。根本的國策ヲ精査シ爲シ内閣

連日

連絡會議

ハ茲ニ數日ニ亘リ大本營ト會合ヲ繼續シテ

孰

孰

カ重ク先結果ニ茲ニ

會議ニ次ニ會議ヲ行ハシテ遂ニ政府及軍

最高司令官ト一致意見ニ基キ反對提案ヲ

日米交渉再開ニ對シ提起シ得ルヤリ (オセニ六)

註1

註2

号ハ及オセニ七ヨリト續ク。本政策並ニ帝國ノ他ノ諸政策



ニ就テ

ハ五日午前開會予定、會議確認ヲ待リ

事態

急迫ヲ告ゲ、今ヤ

二、五口カ支那國內外ノ情勢ハ極メテ緊張シ、

サザル狀勢ニテモ、

亦早延期ヲ許シ、日本帝心トシテ

誠意ヲ

衆心ト、開平和的友好關係ヲ維持セリトスル

策執事トシテ

議

執意、餘り是等孰慮ノ結果、今一度會議繼續

事ニ決セリ。但本交渉ハ

ヲ賭スルハ、然レモ五口カ日取後ノ如ク

實共ニ此ノ

名義ニ於テモ又精神ハ亦、五口カ此

案ナリト

反對提案ハ、實ニ日取後、神實トシテ

ハ、予知アリ度ク、此ヲシテ尚急速

ヲ了解サレシコトヲ、方、事トシテ速

ラザルニ於テハ

此ノ女結ニ到達セ、遺憾ナカラ、今談ハ決列衣

ニ到ルノ外ナク、

其ノ結果

モト申サカケルハ、事ハ、由ニ開、

友好

關係ハ、渾沌ノ縁ニ臨ム、事ハ、今、

ノ己ムナキニ至ルモノナリ。

事ハ、

事ハ、

折衝

国

縣々書中ノ論議ハ成不口ハ立中(運)命ハ甚大ナル

アリ。

其(運)命ハ甚大ナル

影郷音ヲ持テトナリ(運)命ハ甚大ナル

此ノ般子

ノ一擲ニ五口カ国土ノ運命ヲ賭ス

註a. 日米關係改善ノ為、根本方針考訊、

為、大本營トノ間ニ會合開催サレキ旨及最

後決定ハ五日午前ナサレリト日ヲ述ベタル

S.I.S. 第ニ四二九ニ号シテヲ指ス。

b. 入手ニ得ス。

a. I.S.I.S. 第ニ四二九ニハ日米間ノ關係ヲ改善スルタメ、根本

的政策ヲ考慮スルタメ、大本營トノ會合ヲ継続サレテハ

文取後ノ決定が五日午之前ニサレハ答テユトテ述ハサレル

b 有効トス

二四三三〇

二頁

全通

三四四

(8)

東京ヨリ「ワニ」ト云

一九四一年十月四日

此系(A)(至急)

第七三五号(三ノオニ部)

日米會議開始時、誰カ其會議、斯禮、永引、

急進守結ヲ計

夢想、~~...~~ 解、~~...~~

為、從來難キヲ忍ビテ讓歩ニ讓歩ヲ重ネ来リタニ拘ス、

~~...~~ 再ニ讓歩ニ出ス

之ニ対応ス所ナシ、終始当初ノ提案ヲ固執シ

合衆國ハ是ヲ認メザレバ、且取初メサレ、同様ノ提議ヲ

居ル現状ニシテ、我方朝野ニモ

遠ニ無ニ是ヲ守トシ居ル。吾國國民及官吏モ亦米國ノ

ニ疑或ハ感心スルモ、勘ラサル義ナリ。我政府ハ、

誠意ヲ疑フ者ナシトシ、凡ソノ種類ノ出

飽迄

恥的、事柄ヲ忍ビ、吾政府ハ其誠意ヲ反覆披歷

テ更ニラ敢テセリ。

之讓歩ニ然リ、彼等ニ對シ屈服スル迄ニ讓歩ス

其ノ所以ノモノハ、

五中ヨリ何故ニ是ヲナスヤ、唯「ワニ」理由ナリ。



即太平洋が平和維持の爲に...

側一部は... 一方的譲歩ヲナサント欲セルが如ク...

世アル如ク見... 弱者ナルヨリ...

從ツテ、五方... 自ラ限度ナルヲ...

存立ト權威トハ必要ニヨリテハ... 其時刻...

如何ノ問題ハ... 擁護セサルハ...

國々互ノ地位能ハズ... 又ハ辭クニ...

出ヅルニ於テハ交渉ヲ... 提唱スルモ...

能フ限リ、友誼的精神ヲ... 限界リ...

此度ハ... 早晩後ノ出来...

シテ、以テ局面ハ平和的收拾ヲ計ラント欲スルモノナリ。

平和的

心

得

相

并

在

心

心

心

三四三三十一

李

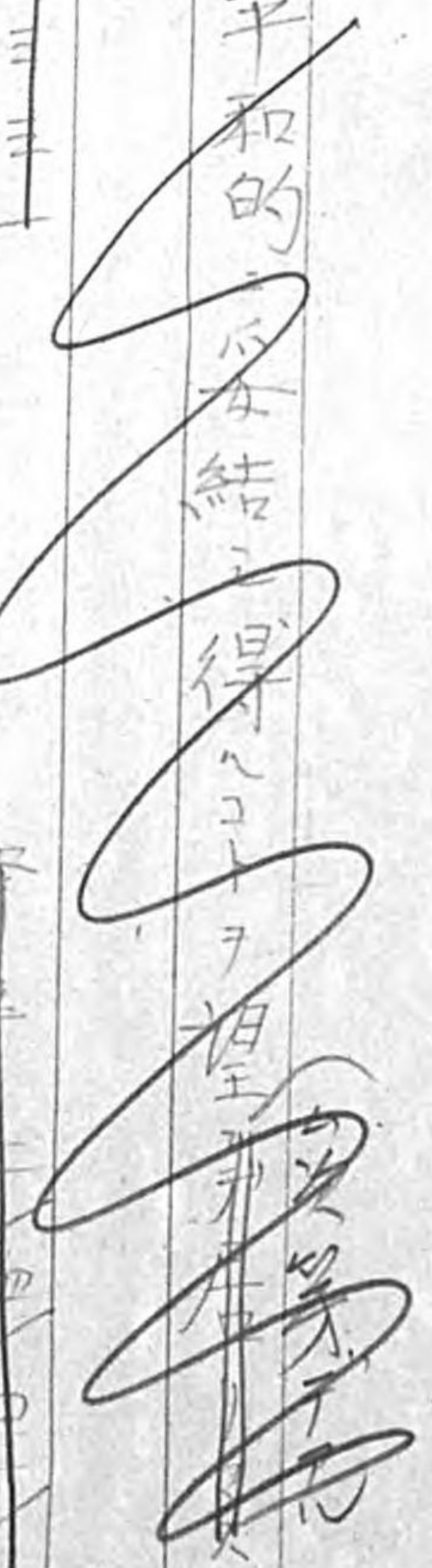
三

四

四

一

五



東京ヨリワシントンハ

一九四年十月四日

此系(ア)一(至急)

第七五号(三ノテ三部)

三、最後、自即、日米交渉、日取後、日二ハ、如何ナル事

能心カ生ズンカニ思フ致シ、北米合衆国政府、<sup>ニ於テハ</sup>吾方ト

和平ヲ結ブコトカ、如何程有効ナル事カ、又此<sup>之</sup>事カ全

世間ノ情勢ニ如何程良キカ、慎重ニ考察サレ<sup>ル</sup>様

~~喪~~心ヨリ望<sup>スル</sup>ヤ切ナリ

四、閣下ノ上記ノ事、<sup>ニ</sup>使命ノ如何ニシテ大

ナルカヲ承知セラレ<sup>ル</sup>貴使<sup>ハ</sup>問題解決ノ鍵ヲ

握ル上里西如<sup>ル</sup>地位ニ<sup>テ</sup>五口々ハ、五口ノ<sup>帝國國軍</sup>軍

命ヲ用<sup>テ</sup>拓<sup>ク</sup>事カ有效ナル事ヲ貴使カ

ナレ得ラレベシト大ナル希望ヲ囑シテ居

ル次第ナリ。

此上其右諸矣篤ト申諒承ル

以テ

何卒貴下ノ深ク其事ヲ考テ沈着ナリ

ヲ盡シテ

貴下ノ最善ノ努力ヲ繼續スル決意致サレ度

余ハ

殊貴下ノ狀致サレシトヲ希望スルモ

次ヲ甚目

キニ付、其上

終ニ下ト直ニ貴下ニ通報致スベト而シテ貴

方ニ於テ

大統領

ハル

貴下熱心ハルズベト及ビ國務長官下ト會見

シ、我方

セリテ貴下ノ神速ナル。亦貴下ノ如ク

決意ナリヤ。徹底セシメ極力交渉ノ急ヲ速ニ

ヲ計ラレ、稱謝努力アリ度シ。

下解ヲ得

貴地ノ折衝ト並行シ

五是等會談ノ重要ニ鑑ミ、貴下ノ其地ニ通

接衝

余

ニ於テ接衝スル。

余

傳書ニモ亦岩田地ヲ通信スル。

蘇東



余ハ在東京

會議ヲ行フ豫定ニ付、貴使ニ於テハ

米國大使ト譯スルニ付、貴使トシテ、米子官邊

意見趨勢

為美者方ニ

トノ會談ニヨリテ、其ノ輿論ヲ得ルニ付、新聞電

報ニ於テ、今後ノ交渉經過ハ勿論、

從其是事事件ノ進展ニヨリ、此貴

方ニ於テ

下カ何等ノ新ナリ措置ヲ取ルル際、一報告トシ

ト連絡ヲトラレ度シ。

右持ノ關係ト

トカ、且種々接觸ナリ、其ノ關係ト

手續ニシテ詳ケル為ニ、貴方訓令ハ、飽クマテ嚴守

シテ、其ノ中ノ事柄他ニ外ルル事ヲ防止致シ、其ノ高

事ハ、亦首尾ニ列レテ詳ケル事、貴方下ニ付

飽クテ精細ニ事ナリ

←アリ度ク、貴方

訓令ニ付、其ノ道ニ從ハシ、其ノ望メテ、其ノ前

ハ、且貴方ニ於テ取捨選擇ノ餘地ナキコトト

令中、其ノ個人的解釋ヲ入ル、餘地ナキコトト

ニ度シ。

其ノ所承知アリ、其ノ所望致シ、其ノ

千四百三十一

奉電 二千四百三十一 (6)

2593 (6)

Atend 7

Charred by KUROSAWA.

半七

和

Translated by Seidichi OHTA

奈佳所

「ワシントン」(野村)宛

奈佳所

東京宛

日

一九四四年昭和十九年十月十八日

「シー・エイ」

帝親任敬祝。本使

貴殿御用申上レテ敬祝申上ル所也。

私

前内閣、方針

後以テ本指指令サレ、私等も亦

力致セシモ、何等も役ニ立テ得ズ、主其任ノ重

大ヲ痛感心ニ居レリ。

其結果私ハ大妻ニ自費

ノ念ニ馳テ居ル所也。

私ガ此職務ニ就キテ以來

志トヨリシ、深ク憂慮スル所ナリ。

私ハ此職務ニ就キテ以來

志トヨリシ、深ク憂慮スル所ナリ。

私ハ此職務ニ就キテ以來

志トヨリシ、深ク憂慮スル所ナリ。

私ハ此職務ニ就キテ以來

志トヨリシ、深ク憂慮スル所ナリ。

私ハ此職務ニ就キテ以來

志トヨリシ、深ク憂慮スル所ナリ。

私ハ此職務ニ就キテ以來

志トヨリシ、深ク憂慮スル所ナリ。

私ハ此職務ニ就キテ以來

志トヨリシ、深ク憂慮スル所ナリ。

私ハ此職務ニ就キテ以來

金多明瞭十事あり。其レガカキ私レ後ま

存在ハ思カ有官ノ存在トナラニ事ヲ慮ルカナリ。

身許キナリ友ヲ害ニナリハセヌカト案レキ居マ

前大臣視切キ私レ激勵キ下ナリ其レ中私切

一忘慎重ニ

致スコト致シ

一度最近ニ核會ニ日本ニ帰リ親レノ当地ノ状

況由報告申シテ同時ニ力事向分ノ由指示

報書ニ其ニ附随キ總キ事決メ

貴殿ノ指令ヲ裁キ亦ニ其レ近私リ申キ

得はら

此レ指テ譯テカキ直ガ

スレテ用意キ裁キ屋中御座イ

井口向レテ練達ノ士後ノ事ハ

向等

差支ナリ

萬事任セ

差支ナリ

萬事任セ

差支ナリ

萬事任セ

差支ナリ

# 2593  
D-5

翻譯者

野村

~~野村~~

~~機密~~ 秘密

軍事

伊東(豊田) 谷信 東京 (豊田)

至ワシントン 受信 ワシントン

一九四一年(昭和十六年)十月十六日

紫 (CA)

第六七号

實本官ハ東京駐在獨逸及伊太利兩國

交渉

スヘンベック

サレタモ

候ヨリ日米機密ニ関シ内報ヲ弗トシテ依賴ヲ東米ニシテ

交渉ノ

拒絶シテスリキリ

此機密ノ性質ニ鑑ミ、其内報ヲ考メテトハ果テモ

ルニ

耳。然レ其本月早々獨逸側ノ米商船攻撃

其ノ結果ニ因リ

件ニ

言

及中立法改訂運動ノ機密(復法?)ニ關シ獨逸機

密

討シ

其ハ日本政府ガ米國政府ニ機密ヲ洩ルル事

#25930  
D-5

ルーズベルト政権が相変ラズ枢軸國家ニ對シ攻撃手

ニモシバ  
ヲ増大スル也 ~~敵對狀態~~ 一方ハ獨伊他方ハ合衆

敵對狀態が必起ルヘント日本政府意見ヲ追察

國ノ ~~飛~~ 如何キモ避テ得テシテハ又果ト

スニヤウニ要求也。如上ノ理由ヲ以テ

~~三ヶ國~~ 三ヶ國候約ニ合マル、責務ガヲ喚起スルコトナリ

理申トモ成リ、日本ヲシテ合衆國ヲ敵ニ廻ス戰心手ニ

ニ送リテヤモ

ハ追察ヲ登ル

速刻参加サレシヤモ知レズト ~~報連~~ 報連

ヤウニ要求 ~~レ~~ ン平ハレ也。

着做ミテ居ルトヤウニ趣ヲ傳ヘシヤフニ要求シテ來ル。

我々ハ日米交渉ニ銘ニ適カナル時期ト追察、

~~ハ~~ 今ニ至ルニ比通牒ヲ發シテ居ナイガ日本

文句ヲ細心ニ検討スルニ必要ヲ認マル故ホ、

協商ト視シ合キキモ本人ハ比通牒ヲ為ス適當

追察ヲ登シ居ラス。

此時期ニ其文書ヲ細心ニ注意ヲ拂フキ考慮

之意

ニルマ、ハ必要ヲ認メテ居ル。獨逸 ~~ハ~~ 線規

同一要求ヲ提出シ、~~此~~ 此事ノ件ヲ是レ

4

#25930  
D-5-

理由が

以上延引スルコト出来ヌ道程アル。~~...~~

ニカ

日本ハ獨逸ト結ンダ三國同盟ニ依リ日本ニ課セラレ

タル主見務カラ遂行スルヲ為メ何カ用為サネバ

交渉ヲ

ナラス必由ニ迫ラセ~~...~~同時ニ他方日米協定~~...~~

セシメントラ合願シテ平ル。

~~...~~成功ヲ~~...~~抱キ~~...~~

~~...~~終

如斯事情ノ下ニ在ツテ~~...~~別電第~~...~~六七ニ

交渉

号記載ノ文~~...~~而モ~~...~~日米協定ニ影響ヲ

ガレ

其ハ~~...~~言葉ヲ適當ナル時期ニ~~...~~合衆國ニ

敬言ハ~~...~~外~~...~~仕様~~...~~ナント  
思考ス。

此通信ハ~~...~~下ト拙者限リノ秘密事項~~...~~

~~...~~

3

4

#2593D

D-5

4

A.S.I.S. 第二三五七一号 日本帝國政府

著文、通牒

米國政府宛 ~~通牒~~ 参照ノコト

一九四一年十月十七日 辭通譯(七)

陸軍 二三六三一

和表

中三三三三三

登信  
コピートン (野村) *dictated by P. Chuman*

野村 (野村) *野村*

D-4

一九四一年十月八日

九〇七号 (四、一) a

(政府暗號ニテ取扱ユトシ、當該官廳祕密)

貴電六三七號

本件ニ就テハ後刻國務長官ト會見後更

ニ通報スベシ。然レ現下ニ於ケル余ノ見解

ハ尤ノ通りナリ。

(一) 一日附米國政府ノ覺書ニ依レバ米國ハ

ソノ固執スル諸原則並ニ本所員ニ就テ一致点

アルユトラ認識シ居レリ。然レ現下ガ詳細ニ

巨リ討議ノ希望ヲ表示セザリシ理由ヲテ

不満足ヲ感シ居レリ。米國政府ハ兩國關係ヲ



原則ヲ基礎ニ兩國關係ヲ調整スルニ  
四ツノ~~基礎~~ <sup>原則</sup>ニ依リて兩國關係ヲ調整スルニ  
調整セムルハサテ又四ツノ基礎的原則ヲ信  
信ハ居ルニ在リ。

才居ルニ在リ。米國政府ハ大太平洋問題解決ノ  
爲メコレ迄兩國~~間~~ <sup>家</sup>ニ依リ非公式會日談ニ於テ

根本的ニ探地九サレ~~ル~~ <sup>ル</sup>諸問題ニ就テ一致点ヲ  
見出ス必要アルモノト考ヘ~~居~~ <sup>居</sup>レリ。

指導者~~間~~ <sup>間</sup>ニ於テ交渉が~~建~~ <sup>建</sup>刻實現スルナラバ

前述ノ四原則ヲ大太平洋ノ具體的問題ニ適  
用スル~~ハ~~ <sup>ハ</sup>的確ニ理解セラルナラバ

途ヲ~~常~~ <sup>常</sup>ニ於キ~~キ~~ <sup>キ</sup>レリ。

↑~~常~~ <sup>常</sup>ニ感心シ居ルニ~~キ~~ <sup>キ</sup>レリ。而シテ米國

政府ハ吾々ノ見解ヲモトテ~~鮮~~ <sup>鮮</sup>明ニスルコト

a. 田ノ三郎 S.I.S.カニニニ九ニ~~ラ~~ <sup>ラ</sup>多~~ク~~ <sup>ク</sup>

カ~~本~~ <sup>本</sup>布~~想~~ <sup>想</sup>ニテ居リヤネ。

b. S.I.S.カニニ二八号ニ~~於~~ <sup>於</sup>テ外相~~重~~ <sup>重</sup>田ノ野村~~外~~ <sup>外</sup>使ニ

対シ米政府ニ~~テ~~ <sup>テ</sup>直ニ~~鮮~~ <sup>鮮</sup>明ニ~~シ~~ <sup>シ</sup>ヤ~~テ~~ <sup>テ</sup>要~~ス~~ <sup>ス</sup>。

陸軍ニ三三三一九 和志 10/10/41

3

署名

ワシントン (野村)

#25930

D-4

3

署名 東京

(野村) ワシントン 東京 署名

一九四一年十月八日 紫電 署名

ワカオ七号 (四ノ三部) a

中野 署名 (政府暗號ヲ取扱フコト)

前述ノ事実及是迄米國政府ト交渉ニ

余

ドラ

其得タル印象ヲ判断スレバ米國ハ今迄  
兩國ノ直視シ得ナカッタ

中米 南米 交渉が失敗ニ終ラバ 根本問題  
ニ就テ 合致点ヲ発見シテソレヨリ 遂次

シツ

ズベク

居レリ

他ノ問題ニ轉ルルニ至ルニ至ス

米國政府ハ前述ノ点ニ関シ一致ヲ見ザル限

リノ他ノ諸問題ヲ討議スルハ無益

ナリト

居ルコトナリ

我ハハコトヲ痛感シテ居リマヌ。故ニ現

在マテ米國ハ六月十一日ノ五口ガ提案

\*

#25930

D-4

4

中ニ述バタ他ノ問題ニ就テ自己ノ意見ヲ

表示スル以外ハ何等爲ス所ガナリませ<sup>ナカリキ</sup>ト貴下

辭

ニ対スル~~電~~電ノ通り取後ノ條項ニ幾分ノ

変更ガナリませ<sup>アリキ</sup>

六月二十日附米國政府ノ提案ニハ米國ハ

交渉基礎トシテ右提案ヲ固執スルコトヲ

シキ。

明カニシキトモ米國政府最近ノ回答ニ依

リ~~レ~~バ二十五日附ノ吾ガ提案ヲ全ク無視

レリ。

シ~~テ~~居リ~~キ~~マ~~ス~~。コレハ米國政府ガ所

持スル理念ヲ固執スルコトヲ表<sup>スモノトリ。</sup>シ~~キ~~マ~~ス~~。

アリ~~キ~~マ~~ス~~。然~~レ~~シ吾ガ~~ハ~~尙<sup>在記</sup>關係事

項ニ就テ~~シ~~合フ必要ガ<sup>ヲ記</sup>ナ~~リ~~マ~~ス~~。即チ

\*

25930

0-4

5

(A) 支那事變ニ關スル附屬條項ニ記載セル事柄

(B) 將以右援助ニ對スル計畫的活動、中止

(C) 支那事變ニ係ル條項中、南京條約

ニ關スル協約(日支條約)、歐州戰爭ニ對ス

ル五口が態度ニ執テ、記述セル共同仲裁

及自衛權、兩國間ニ於ケル貿易ニ

關スル附帶事項、除去問題。

a. 一、一部ニ取得不能

二三二九三

秋彦

解説

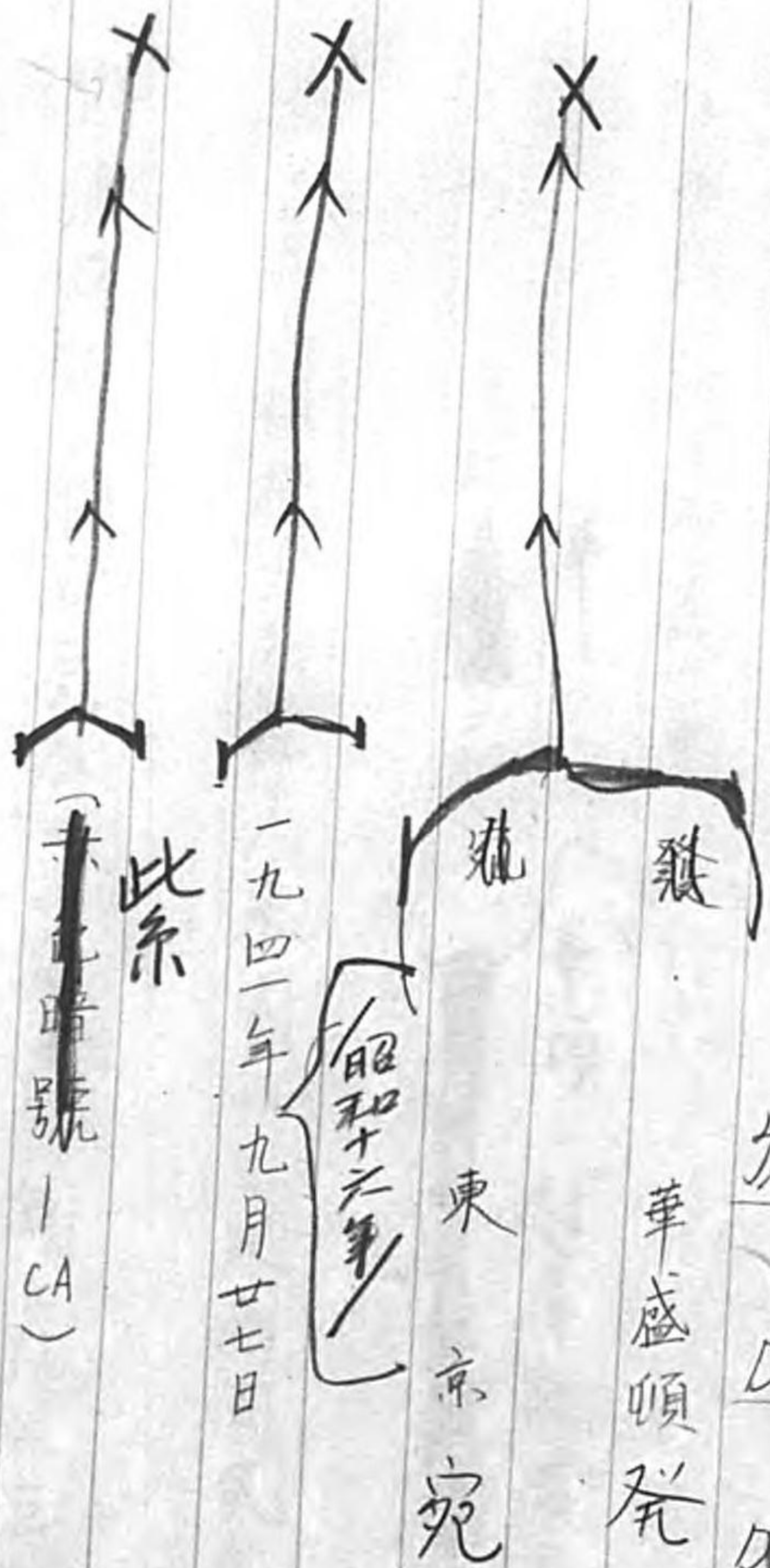
149541010

#2593

D-3

Deming

Translated by  
 OKI Hiroshi  
 Date started  
 Sep 10th, 1946  
 Date finished  
 Sep 11th, 1946



第八六五號 (十部ニテ、完結)

本

(第一部)

果關 廿七日、松平ニ「バラントイン」

花

ヲ訪問 貴電ノ趣旨ヲ傳ヘ、同時ニ貴電第五九一

號、並ニ五九五號中ノ英譯本文ヲ手交

ソレカ「ハヤル」ニ手渡しサレル様ニ依頼シタ。

此、機會ニ貴電第五九五號 注意ヲ惹

漚致シ度ク

ク諸點ニ就キ思見ヲ披瀝 其ノ重要

性

GG

# 2593D  
D-3

2

ノ如何ニ拘ラス、茲ニ申シ上ゲル。

件

事項ニ就テ報告セシ所リ

1. 此 ~~ニ関スル~~ 是迄數

回ニ亘リ指摘シタル如ク、米國ハ日米兩國民ガ統一スル

關係諸點ニ関シ完全ニ一致スルニ到ル迄、「巨頭會談」

南流

ヲ維持スルハ必ヤ當田ナラズト主張シアリ。目下、米國ハ確

カニ前記諸點ニ関シ我ガノ態度ヲ調査シアリ。御言

葉ノ如ク、述フベキハ既ニ悉ク述ベタ以上、今ヤ我々ハ

米國ガ意向ヲ表明スルヲ待ツノミデアル。

(第二部) 米國側ヨリ何等回答ヲ受クルニ先

カチ、米國側ニ對シ是レ以上書類ヲ提出スルナラバ

事終ハ

益事紛糾ト一層不明瞭ナラシムル恐アリ。

#25930

3

D-3

予  
此ノ事が會談ノ進行ヲ妨ゲル<sup>向アリ</sup>ト思フ。

若シ何カノ機會ニ我テノ書類中ニ判然タ

ル矛盾ノ生ズルガ如キ事アレバ、米國ハ當テノ誠意ヲ

疑フニ到ルヤモ知レズ。

(第三部) 本來ヨリ云へバ、米國ハ六月廿一日ノ

米國側提案ニ表明シアル條項ニ從ツテ進マントシアリ。

現在迄ノ經過ヨリ判断スレバ、其等提案ニ概記セ

アル提議事項ハ左程懸離レタモノナスト思ハレル。更ニ

實行性ノ點ヨリ見レバ、其等提案ハ最モ具體的デ

アルト思フ。故ニ余ハ、提案中ニ具體化サレアル事項

ヲ吸入レルガヨイト思フ。

#25930

D-3

4

2. 正當ナル理由ヲクシテハ、~~條約~~ニ北ヲ

進出ヲ爲サズトノ條項ヲ抹殺スル事ハ、明カニ最大

惑ヲ招来スル

ノ疑~~點~~點テアル。

(第四部) 3. 歐羅巴戰ニ對スル兩國

相互ノ態度。是トニ關スル電報ニ於テ指摘シタル如ク、

(特ニ弊電第五四。號參照) 米國側見解ヨリスレバ、其

同仲裁ヲ提案スル第一項ヲ保留スルハ極メテ困難ニテ

。 (特ニ米國船ノ沈没後ノ大統領聲明ニ鑑ミ

テ) 最近ノ經過ハ米國ノ態度ヲ益ニ強硬ナラシメ

從ツテ

就イテ

ク、~~條約~~ 愚考スルニ此ノ點ニ米國ノ同意ヲ得ルニハ

恐レアリ。

相當ノ困難ニ當面スル



#25930

D-3

(第五部) 第二項ニアルか如キ自衛ニ関スル

件ニ就キテ、先ニ報告シタル如ク、亦モヤ、歐羅巴戦ニ関

スル總ニ米國ノ行動ハ、確カニソノ出發點トシテ自衛ニ

関スル基本國策ニ基キテ爲サレアリ。假リニ米國が自衛的

戰ニ捲込マレルトシテモ、米國ハ自己防衛ノ爲ニ斯

アツニ一方、何等侵略的攻勢ヲ意味

クスルノテ、~~米國ハ~~米國ハ自衛的ニ行動スル

也ズ、假ニ米國が斯クスベキカ分ナル挑発

的ニ行動スルハ如何ナル意味ヲ有スルモ、侵略的

行為ヲ爲シテモロテアル。

撃トナシ又、斯クノ如クシテ米國ハ、我國が三

國同盟ナル語ヲ唱フルヲ不必要ナラシメントシアリ。斯クシ

(ニ可能ナル限り彈力性ヲ

テ米國ハ、自衛的強硬ナル「自衛権」ナル語ヲ持シメント切

望ニ居リ。(幣電第三八一號中「ハル長官」ノ談話參

# 2593D

6

D-3

照)

斯ル理由ニ依リ、米國側ハ此點ニ関スル我ヲ提案

ノ文句ヲ受理

スルストニ甘ズルコトナク

我が自衛ノ必要

テララ概説スル事ハ徒ニ米國側ノ懷疑ヲ惹起スルモノナリ。

封封

(第六部) 支那事変ノ落着ニ関スル件ニ就

キテハ、幣電第五四〇號ニ於テ指摘シタル如ク、本来ヨリ

我が方ヨリ

ス可キ

云へバ、米國ハ、~~米國ハ~~支那ニ對シ提議スル平和條件ノ概

居リ、

附屬書ノ

於テ

述レテ事ヲ出張シ、米國ハ、~~米國ハ~~内容ニ關シ

ヲ見タル

用ス可シト

完全ナル一致、~~米國ハ~~後始メテ、眞ノ會談ヲ始ルルヲモテ

方

主張シアリ。依ツテ我國ハ、必スヤ、駐兵ト無差別待遇ノ

事項ニ関スル協定

シテ同意スルコトナク

~~困難ナク問題ニ直面シ、~~

#25930

D-3

7

終極ニ於テハ

諾

牴觸

~~締結~~ハ我々ハ米國若ク南京協定ノ條件ヲ對シ

ザル

限リ、米國側ガ提出シタル條件ニ同意セシメバナラヌト

思フ。我々ハ此ノ事ニ實ヲ留意シテ説明ト對案トヲ

為スベキナリ。

# 2593 D

D-3

Started: Sept 10  
Finished: Sept. 11

Translated by  
Kentaro MURAKAMI

~~Y. H. K.~~

(第七部)

合衆國ヲ説服スルニ今後トモ數次ノ會談ヲ

遂ゲルノ要アルニ疑ハズ

我が方駐兵事務~~補~~ノ結

果~~シ~~會談が完全ニ決裂スルニ危険性ニ常ニ

増大シマハルハ無差別問題ノ觀見ノ前者ニ比シ

差稅問題ニスルニ~~事~~。 呈ラズ。

我が方提案中ニ

當方ニテ無差別ハ日支間ノ事務處理ニノニ摘

用サルベヤ旨言明シ、第三國ガソノ經濟的事業

ヲ公正平等ノ基礎ノ上ニ遂行スル限リ、

三國ハ決シテ差別待遇ヲ受ケルコトナキ旨附

言~~ハ~~ 予ハ合衆國ガ此等ノ條件ニ満足

スベシトハ全然確信を得<sup>ル</sup>。

(第八部)

更ニ恐ラリ政策的見地カラ新タナル「特殊緊密

關係ノ原則」ヲ合衆國ニ鶏呑ミサセルニハ可成リ

ノ困難ニ遭遇スル<sup>ル</sup>ハ<sup>ニ</sup>ナリ。

此等ノ莫ク措クモ第一章ハ合衆國ト曰

本<sup>ト</sup>共<sup>ト</sup>同<sup>ト</sup>ニテ支那事變解決ノ責ニ任ズル

意味ノ言葉ヲ用ヒ<sup>ル</sup>ナリ。

此ノ莫ク<sup>ニ</sup>於<sup>テ</sup>我ガ

方ガ成<sup>ル</sup>切<sup>シ</sup>得<sup>ル</sup>ノ確信ヲ即<sup>チ</sup>「全然」云々得<sup>ル</sup>。

何故<sup>ト</sup>テ此ノ「了解協定」ヲ發表スル時ニ此ノ

コトガ好印象ヲ与<sup>ス</sup>ル<sup>ル</sup>ト思<sup>ハ</sup>ル<sup>ル</sup>ナリ。

(予が前電ニ於テ報告セル如ク、合衆國ハ此ノ  
 了解ヲ秘密ニシテ居クコトニ賛トナス。)  
 我セル)

……合衆國ヲシテ仲介ノ當ヲト  
 ラシタルコトニ言及セルカニ章ノ内容ニ関シテ  
 ハ、……及ビ要ボノ莫ハ我が方が從來  
 定メタル線、同様ニ四月十日附貴指令ニ  
 モラシク線ニ沿ヒ進ム場合ニ必然的ニ新要  
 ボヲテスコトニ入ル。

(カ九部)

併セテ予ハ先カラシテ新クナル事項ニ関  
 心セシメルニ可成リノ困難ニ遭遇スルニト

#25930

D-3

軍ハザルヲ得<sup>信</sup>ズ。

和平條件ニ関スル章ニ

次ノ語句が見エリ「近衛聲明及ビ日支間」

云々ノ協定。予ハ此ノ点ニ於テ先方ノ

承認ヲ得ルニ困難ヲ~~書~~感スルニ<sup>ナリト</sup>思<sup>考</sup>スルニ<sup>シ</sup>。

ズベント大統領ハ自身ヲ斡旋ノ術ヲトルエト

ニ非常ニ関心ヲ有セテ<sup>ナ</sup>ル故ニ文中ニ「大統領」

ト<sup>ル</sup>語ヲ挿入スル方宜シカラシ。

(カ十部)

五、ニ國間ノ通商問題ニ関スル七月十五日

附費指令拜受。貴方提案ハ六月二十一

日附合衆國則提案ニ基<sup>キ</sup>ヅ<sup>ク</sup>ケル<sup>ニ</sup>ト<sup>キ</sup>拜<sup>シ</sup>

コトヲ希望スル。

案ナシ。

六、太平洋ノ政治的安定ニ係ル件ニ関シ

テ、ソノコトニ言及セル六月二十日附合衆國

側提案ノ其該部分ハル長官自身ノ

起草ニカレル由。~~案~~合衆國が此一面が

最重要トテリト<sup>シテ</sup>臨<sup>ニ</sup>キル故ニ先方提

案、此ノ部分ヲソノ儘許諾セルニ<sup>サレニ</sup>トテ

第<sup>ニ</sup>ル。新提案ニ於テハ特ニ我方ハ支那

身変終結ノ際ニ於テノニ佛領印度支那

ヨリ撤兵スルコトヲ約スル旨述ベタル部令ヲ

削除<sup>サレニ</sup>トテ再<sup>ニ</sup>承<sup>シ</sup>ル。我が方ニテ太平



洋一全面の和平状態、條件之云及セル部分  
 /ニテ残心得ルバ合衆國ニトワテハコリ反謀シ  
 得ルキモノトテト思フ。

取極ヲ  
 言ヒ換ヘシバ準備會議ノ合~~平~~締結  
 セニストコ希望スル。  
 平和ニヤリ希望スル。

\*JD- 五田一五  
 日本  
 平和回復後モ支那事務局の  
 駐兵スル必要アル~~務~~長文ノ説明ヲ  
 提出セリ。

\*\*JD- 五田三三  
 日本ハ「指導者會議」ニ米國ノ  
 妥諾ヲ求ムルコトノ最後ノ努力ト  
 見ユル通知ヲ送付セリ。S.I.S.カニニ七五ハチ

野村大使ハ了解協定ノ提案ノ思想ハ心  
 協議ニ基ク意見ニ兩國内ノ見解ハ  
 大キナ開キカアリ。東亞會々ノ提案ハ強

解ヲ~~強~~道ヨクベシト表示セリ。提案ノ  
 教理ニ對シ論評ヲ下シ。是等名取ニ  
 對シ東亞會々ノ意見見テ要ヲ~~示~~。S.I.S.  
 取極不能。

一九二二

Translator,  
G. Komabayashi

- 17 -

Checked by KUROSHITA

#2593-D-19

寄附金 2593 D十九号  
及二十五号

寄 (ワシントン) 宛 (東京)

一九四二年 昭和十六年 十一月 二十六日

紫色 (大至急) (紫兼信)

第一八〇号ニ、オ一 (部)

野村、未栖ヨ

電報 (往) 乙案全部ヲ  
電報 (往) 如ク我ハ「日提案」ヲ彼等ニ考

慮セシムル事、全面的ニ不可能ナル。先ヅ又他方、交渉ノ案

際、既ニ決裂シ、言ハル事、若シ我々今日、獨

迫ル情勢ヲ放置スレバ、決裂シ、我々ハナキニ剩ル外ナラ

不、我々、失敗ト屈辱ハ決定的ナル。比際唯一

ノ打開策トシテハ、甚ク恐懼ニ堪ヘザル也、我々ハ重ク大ニ

情勢ヲ救フ事ヲ言ハル。我々ハ重ク大ニ

疑懼ヲ抱イテモルガ、我々ハ先ヅ、イールズベルト大統領が

後世、爲、日米ガ太平洋ニ平和維持ノ爲ニ協力スルコトヲ

望ム旨ヲ貴方ニ電報 <sup>スルコト</sup> ~~スルコト~~ 提言ス

此ノ件ニ関シ、貴方ノ意見ヲ我々ニ打電サレ次オ

并ニ全カク擧ゲテ之ガ手續ヲ交渉ス <sup>ス</sup> 及ビ

~~貴方ノ意見ニ折返シ、貴方ヲ~~ 懇篤ニ通牒スルコトヲ提案ス

得ヘシ。之ニ依リ、<sup>宣</sup> 團氣ヲ明ニスル

今少シノ時、<sup>側</sup> 概ノ猶豫ヲ得ヘシ。英米軍軍令由領表

印、其保護ヲ置カント計畫シ、<sup>ヲモ</sup> 可能性アリ

我々ヲ先手ヲ打チ、佛印、蘭印、<sup>ルコト</sup> 可新ト思カス。

中立國設立、提案ス <sup>ルコト</sup> 可新ト思カス。

~~御通知~~ 通 ~~ル~~ 去ル九月「ルースベルト大統領が佛印及

~~未~~ 泰 国

中立ヲ提案

ルースベルト大統領が佛印及  
通シ

~~陸軍~~ 六八九 二五四三

我

~~一九四二年四月二十日~~ 議決 (1)

translator,  
Ikomabayashi

-18-

(1)

弁  
ワレニトシ  
完  
東京

一九四三年 昭和十六年十一月二十六日

吉野藩子二五九三号

D. 十九号

第二十一号

紫色  
大至多  
紫  
紫

紫  
二八〇  
二  
カニ部

今因

我々の現行の交渉決裂が必らずは日米戦争の意

味ヤサルヤ、観測存スヘキ也

前承(一)

味ヤサルヤ、観測存スヘキ也。然し決裂後ハ我等申す如ク

側  
進駐モ

想セラレ、延イテハ

英米、蘭印軍事中継、豫期サレキヤカハ。然し

方ノ  
我等ハ彼等ヲ攻撃スベキニ見テ英米衝、大

可避ナルバク、右ニ対シ、  
我等ハ彼等ヲ攻撃スベキニ見テ英米衝、大

可避ナルバク、右ニ対シ、  
我等ハ彼等ヲ攻撃スベキニ見テ英米衝、大

我等ハ彼等ヲ援助スル義ヲ感スルヤ否ヤ

疑問ニシテ、且

アル。我等ハ彼等ヲ援助スルヤ否ヤヲ疑フ、再

(2)

支 解決ハ今次  
日華事變 定サレ得ル所ニ  
持テ、越スノ外ナキニ至ルベシ。

世界戰 終局  
傳集ハ、  
本使トシテ、最後ニ  
銘記セズニ付、

本電ハ、意見具申タルニ付、少クモ  
我等、此電報、我等、申スルハ、個人的意見

海軍大臣迄ハ、示シ、上ニ至ル心折返  
見、最後のモ、申サレ、閣下ニ、希フ、海軍

向分ノ、電、切、治、久。  
大連、出来、傳、ハ、彼、文、ニ、之、ウ、カ、マ、イ、キ、サ、レ、ト、カ、リ、カ、リ、

海軍大臣迄ハ、返電相成度。

~~海軍大臣迄ハ、返電相成度。~~

陸軍、  
二、五、四、三、六

秋

~~一九四四年十月廿一日~~

2593 (Certificate)

WAR DEPARTMENT  
WAR DEPARTMENT GENERAL STAFF  
INTELLIGENCE DIVISION  
WASHINGTON, 25, D. C.

24 JULY 1946

I hereby certify that the attached photostats of Japanese messages have been intercepted by electric or physical means, decrypted, and translated by trained personnel of the War and Navy Departments, and are accurate and authentic to the best of my knowledge and belief insofar as it is humanly possible for an occidental accurately to translate Japanese script.

/s/ Carter W. Clarke

CARTER W. CLARKE  
Colonel, G. S. C.

Doc. No. 2593 (Certificate)

WAR DEPARTMENT  
WAR DEPARTMENT GENERAL STAFF  
INTELLIGENCE DIVISION  
WASHINGTON, 25, D.C.

24 July 1946

I hereby certify that the attached photostats of Japanese messages have been intercepted by electric or physical means, decrypted, and translated by trained personnel of the War and Navy Departments, and are accurate and authentic to the best of my knowledge and belief insofar as it is humanly possible for an occidental accurately to translate Japanese script.

/s/ Carter W. Clarke

CARTER W. CLARKE  
Colonel, G.S.C.



# 2593

D-21

小山敏三子談

極秘

東京宛信 東京

伯林宛信 伯林

一九四一年十一月三十日

紫 (CA)

九八五号 (三ノカ一部) a

往信 平官同文通牒 九二三八七ノ南ノ件 号ニ付ニ付シ

去日

一、前内閣政府ノ時、東京及ワシントン向ニ開始サレ

タ会談ハ、帝国政府ノ真摯ナル努力ニモ拘ラズ、今

マ決裂シ、断絶ナリ。 (余ハ別電九八六号)

ニテ経過ノ概要ヲ送附ス。此レヲ目前ニシテ、我が

帝国ハ重人ヲ派シ、直ニ面會シ、断乎タル行

g.g

#25930

D-21

2

動ヲ採ラ<sup>カ</sup>ル<sup>ハ</sup>バ<sup>カ</sup>ラ<sup>ス</sup>。其レ故、貴官ハ速カニヒツトラ

一、總統及リワ、ペントロワフ、外相ト会見シ、内容ニ

経過概要ヲ傳<sup>ル</sup>シ<sup>テ</sup>傳達サレ度也。<sup>最近ハ</sup>英<sup>國</sup>米<sup>國</sup>

兩國共ニ挑発的態<sup>度</sup>ヲ採<sup>ル</sup>ル<sup>事</sup>ト傳<sup>ハ</sup>ル<sup>事</sup>ト

傳<sup>ハ</sup>ル<sup>事</sup>ト。兩國ハ東亞ノ各地ニ軍隊ヲ動カス計畫ヲレ

カ、我々モ又軍隊ヲ動カシ<sup>テ</sup>其<sup>レ</sup>對抗<sup>シ</sup>ル<sup>事</sup>ヲ

後<sup>ト</sup>タイ<sup>ト</sup>事<sup>ヲ</sup>傳<sup>ハ</sup>ル<sup>事</sup>ト。或<sup>レ</sup>武カ<sup>ニ</sup>衝突<sup>ス</sup>ニ依<sup>リ</sup>

テ、アングロ・サクソン国家ト日本<sup>ト</sup>間<sup>ニ</sup>戦争<sup>ガ</sup>突如勃発

スル非常ノ危険ガアル事ヲ極秘裡ニ彼等ニ傳へ且、

本戦争、勃発時期ハ何人ノ夢想<sup>ス</sup>ル<sup>ヨ</sup>リモ速<sup>ク</sup>ニ来<sup>ル</sup>

スルヤモ<sup>レ</sup>ズト<sup>ク</sup>知<sup>ル</sup>事<sup>ヲ</sup>附<sup>カ</sup>サ<sup>レ</sup>度<sup>也</sup>。

a. 一、我々部入キ不能、我々部ニ就テハ、S.I.S.ヲ

# 25930

D-21

3

二五五五号 参考。

b. 1 今年不能。

c. 1 S.I.S. 为二五五五号及二五五五号 参考。

二五五五

~~秘密~~

JD 六九四三

翻款 12-1-41 (NR)

# 2593D

D-21

4

東京院信 東京

伯林宛 伯林

一九四二年十月三十日

紫 (CA)

中九八号 (三ノカ三部)

四、此等彼等ニ傳達スル時、若シドイツ側及イタリ-

側テ我國ノ対ソ態度ニ就キ質問ス

我々ハ昨年七月、我方声明ニ於テ既ニ我々ノ態度ヲ

南 南明ニシテ居ル旨ヲ答ル度也。現在、我々ノ南方

移動ハソヴイエトニ付スル我々ノ在迫ヲ緩和スル

事ヲ意味ス又若シ「ロシア」が英米ト一層緊密

#2593D

D-21

51

ニ提携シ、我々ニ敵対スルナラバ、我々ハ全カヲ以テ彼ニ

敵対スル用意アリ、然レトモラ現在 ~~北~~ <sup>南</sup> ~~方~~ <sup>方</sup> ~~ヲ~~ <sup>ヲ</sup>

圧スルヲ有利トシ、苟分ハ北方ニ直接行動ヲ起ス

事 <sup>寧也</sup> ~~之~~ <sup>度</sup> ~~キ~~ <sup>旨</sup> ~~ヲ~~ <sup>傳</sup> ~~ヘ~~ <sup>ラ</sup> ~~シ~~ <sup>度</sup> ~~者~~

五、本電 ~~ハ~~ <sup>ハ</sup> 戦略的見地ヲ、軍大 ~~ア~~ <sup>ア</sup> ~~リ~~ <sup>リ</sup>、也何

ナル状況下ニ於テモ、絶対極秘ヲ保 <sup>ツ</sup> ~~ル~~ <sup>ベ</sup> ~~シ~~ <sup>ム</sup>。

此レハ言ヲ待タザル處 <sup>ナ</sup> ~~リ~~ <sup>ト</sup>。其レ故、貴官ニ何カ

ドイツ側及イタリー側ニ秘密厳守ノ重要性ヲ印象

ツケラシメテ

六、イタリーニ関シ、<sup>我が</sup> ~~ハ~~ <sup>ル</sup> ~~リ~~ <sup>ン</sup> 駐在大使ガ本件ヲ

ドイツ側ニ傳達シ、後、ムッソリーニ首相及チアノ外相

ニ通告シ、秘訣ヲ転送ス <sup>ベ</sup> ~~ク~~、<sup>ト</sup> ~~イ~~ <sup>タ</sup> ~~リ~~ <sup>側</sup> ~~及~~ <sup>イ</sup> ~~タ ~~リ~~ <sup>側</sup>~~

#2593D

0-21

6

側トニ会談ノ日時決定  
法ヲ固示サレタリ  
ト報下サレ度也

本電<sup>及心</sup>別電ト共「<sup>（中）</sup>ローマ」ノ送附アリ度也。

二五五五三

翻訳 12-1-41 (NR)

真云寫。

步兵大尉 ウィリアム J. ウェルズ

~~取~~ 取

#2595

D-2  
Stamm  
秘

~~Handwritten scribble~~

東京発 (外務大臣)

ワシントン宛

一九四一年 昭和十六年 七月三十日

Y. G.

紫 (CA)

中四三三号

(四ノ一)

(ベルリン宛発信ヲセハ)

目下、ロシヤト交戦シ居ル為、我方ノ援助ヲ

希求セル、独國ニ対シ、我方ノトル可キ処置ニ

付、時折リ貴下ヨリ種々ナル意見ヲ申述シ来レリ。

幾度ノ及復々重ネ為メニ、或レ程度ノ倦怠心ヲ

貴下ニ生ヘル所心レアルモ、軍部ト會議セル結果、帝

國政府ノ政策及見解ヲ茲ニ披瀝スベシ。

依テ今後共之レヨリ行動サレ度シ。

#25930

D-2

2

一、七月二十日午前、内閣々議ニ於テ我國今後ノ政策ニ関スル決定ノ大略が採擇サレリ。

既ニ回状カ一三九〇号ニテ通牒牒済ミナルモソシ

以來政府ハ該政策實現ニアラユル努力ヲ拂ヒ今尙拂ヒツ、アル。

二、支那事變ハ既ニ四年ノ長期ニ亘リ、吾等必

政府ノ一般の傾向特ニ軍部ノ傾向ハ

是迄其ノ精力ノ大部分ヲ今事變ノ終結

ニ費シ且ソ努力サレリ、今ヤ我々ハ南北ヨリノ

新事態ニ直面セリ。之ニ対処セニカ為メ

總力戦ニ対スル我々ノ完全武装ハ重且大

ナル理由カアル。



~~Handwritten scribbles and symbols, possibly representing a diagram or a complex note, heavily obscured by overlapping lines.~~

Japanese Stencil!  
leave this in  
this page  
is typewriter  
portion at bottom  
of 1st. leave  
in

電  
報  
組  
立  
法  
の  
概  
論  
第  
一  
章  
組  
立  
法  
の  
概  
論

コ  
ノ  
組  
立  
法  
が  
効  
果  
的  
ニ  
解  
説  
セ  
ラ  
ル  
ハ  
コ  
ノ  
組  
立  
法  
の  
概  
論  
第  
一  
章  
組  
立  
法  
の  
概  
論

且  
二  
七  
。  
入  
手  
不  
可  
得

組  
立  
法

日  
本  
外  
務  
省

#2593D

D-2

東京電 (外務大臣)

ワシントン宛

一九四一年 / 昭和十六年 / 七月三十一日

紫 (CA)

才四五三号

(四ノ二)

(ワシントン宛電才七〇八)

独乙モ亦我方ノ立場ヲ充分了解シヨル模様ナリ

(此ノ)

東京駐在独乙大使館々負ハ既ニ此ノ事ヲ熟知セル

(乙)

モ独本國ハ彼等程我國ノ立場ヲ知悉シ居ラ

ザルモノト思フ

三、日本ト才三ノトノ商業的至濟的関係ハ英米

両國ノ主導ニ依リ漸次非常ナル急迫ヲ告ケ

我方トシテモモハヤ是以上我慢シ得ズ従ツテ

常玉ハ自己生存ノ為南方ノ原材料ヲ獲得

#25930

D-2

4

スル処置ヲ採ル必西女アリ。我常玉ハ一見眠

レルカノ如ク見セカケテキル狡猾ナル飛龍ノ如ク

行動セル米英ノ指導ト関兵ニヨツテ織リナセル

処ノ间断ナク強化サレツ、アル包圍ノ鎖ヲ切断

スベキ手段ヲ直ケニ採用セザルベカラズ。我方

カ佛領印度支那ニ軍事基地ヲ獲得シ其ノ

領土ニ我軍ヲ進駐セシメタルハ

此レカ故ナリ。

敢テ申ス。此ノ処置自体が、露玉ハ云フニ及バズ

米英ヲシテ太平洋ニ於ケル退行ヲ余儀<sup>セ</sup>セシメ

却ツテ独乙、役立ウベキナリ、今ヤ日米關係

ハ加速度的ニ益々邪道ヲ辿リテ、アル。此レハ

#2593D

5

D-2

米の対し如何に打撃を与へようか

A2593D

D-2

中山英夫

6

秘

東京(外務大臣)宛

ワシントン宛

一九四一年/昭和十六年/七月三十一日

特字(CA)

沖四三三号

(四、外三部) (フーリン宛発信 冲七〇八号)

勿論 独露戦争ハ 吾等ニ 北方問題解決

ノ 絶好ノ 機会ヲ 与ヘタ。 予ノ 事件ヲ 利用スベシ

準備ヲ 進メテ 在ルニトシ 事実ヲ 示シ 準備ノ

必要アル ノミナラス 吾人ハ ウマク 機会ヲ 進ムベシナラヌ。

我カ 帝国ノ 直衝セシ 現況ノ 事態ニ 鑑ミ コレハ

容易ニ 理解セラルベシ。 若シ 独露戦争カ 余リニ

迅速ニ 進行スルコトハ 我帝国ハ 必然的ニ 台等ノ

125930

D-2

7

有效ナル一致ノ行動ヲ爲スルニ余裕ヲ有シタイデアラス。

5. 本官ハ 他逸人ハ我對米交渉ニ此ニ力

不満ナルコトヲ知レルモ 再事ハ是非トモ 米國ヲ

参戰スルニ又存希望シ且支那事變ヲ解決センコトヲ

希望シタ。 コノ目標ニ 向ヒ吾人ハ決意シテ居タ。 其ノ

結果 吾等ハ 日本帝國ノ決意ハ深刻ナリトノ

浦上難キ印象ヲ与ヘ 米國ヲシテ 対独對獨ニ

突入ヲ抑止セル事實ニ 反對セントスル人々及對シテモ

備ハタイ。

吾等ハ 機款セリト思ハルニ時ニ 且ツ 曰然目ニ

完全ニ 信賴アリト 推定ノ下ニ コノ會談ヲ

★

★25930

0-2

8

開始セルコトハ 理解セラルベキナル。 二ノ事ニ関シテハ、

當方ニ 異モ望マシカラズ 時ニ 対応ハ 自身ノ

軍事的 命令カラ 露西亜ト 南緯シタノデハナイカ。

今ヤ 吾等ハ、 支那事変ヲ 解決セズハナラヌノミナラス、

南方 並ニ北方ノ 新ラシキ 挑戦ニ 邁ルハナラナイカ、

コトハ 全クト 便ナルコトデアル。

#25930

D-2

~~東京~~

紙

東京(外務大臣) 巻

ワシントン 宛

一九四一年 / 昭和十六年 / 七月三十一日

巻 (CA)

才一四三三号 (一 田ノ才<sup>四</sup>部) (ベルリン宛 癸酉才七〇八号)

吾人ハ 能逸ト 協カスベク 是等善ノ 努力ヲ 払ヒツ、アリ。

~~能逸~~ト コレヲ 知リ、 吾人ノ 行第ヲ 理解スベキデアル。

6. 叔<sup>テ</sup>、 三国條約ノ 根本精神ノ 實現ノ ため

東京<sup>ベルリン</sup>間ノ 協力ノ 形式ハ、 各国ノ、 行第ニ於テ

或程度ノ 柔軟性ヲ 有スベキデアル。 本官ノ 言ハント

スルトコロハ、 眞ノ 協力ノ 処シモ 行動ノ 安全ニ 著一 致

ヲ 意味シ、<sup>イ</sup>コトヲ 銘々ノ 諒解スベキ<sup>カ</sup>ト云フコトデアル。

極キスルニ、 吾人ノ 相互ニ 信頼スベキデアリ。 全体ノ 一國ノ



#2593D

D-2

全作ノ目的ニ向ヒ努力シテモ、ヨキ判断ノ範圍内デハ  
自モノ自由裁量ヲ用事セ~~ル~~フベキナル。

斯クノ如ク、我帝國ノ採ル一切ノ方策ハ

三國條約ノ目的ノ成功ヲ招来スル決意ニ基~~キ~~キ~~テ~~ル

コシガ事實ヲアルトテ~~テ~~ハ、東部ノ發布ニヨリテモ

證明セラレシ。吾ハハ絶エズ、コノ目的ノ實現ノキハニ~~テ~~テ~~テ~~テ

シテ~~テ~~ル。今ヤ陛下ノ恐ニモ緊急時ニ際シテハ

確カ、如何ナル輕重、不用意、或ハ早急ナル行動ニ

從事シテ~~テ~~ルノ余裕ハ、ナクナル。

ローマノ~~送~~信セ

ワシントンへ送信セリ。

~~Who should this?~~

~~陸軍省~~

物議

~~陸軍省~~ (NR)

No. 2593  
(Cert)

機密

陸軍省  
陸軍省  
軍事情報  
參謀本部

一九四六年七月十四日

予ハ茲ニ左ノ通り證明ス。即チ

添ハ電報

日本文通信ノ該附屬直接複寫寫真ハ

陸海軍両省ノ習熟セル勤務員ニ依リ電氣的

傍受サ 職 解

或ハ物理學的方法ニ依ッテ阻止セラレ判讀セラレ

而レテ翻譯セラレシモノナリ。

(ニシテ予ノ見リ且信ズレ限リ)

又該附屬直接複寫寫真ハ西洋人が人力デ正確

高モ

ニ日本文正本ヲ翻譯シ得ル最大限度ニ於テ

ハスルニ為メ西洋人ニトリテ可能ナル

予ノ智識ト所信ノ最善ニ対シテ正確且ツ典據

ノアルモノナリ。

参謀本部中佐大佐

CARTER W. CLARKE

カーター・ダヴリヤー・クラーク  
大佐 知事 エネン

氏

Checked by AKITA

Doc. 2593

第 一 九 五 號  
第 一 九 五 號  
第 一 九 五 號  
第 一 九 五 號  
第 一 九 五 號

FOR REPRODUCTION

Document No.

2593 ~~Doc 2593~~

Translation Section No.

IV

S. ISHIKAWA

鶴 戸 12

三月十日刻彼ヲ訪問  
延期ヲ求メ、夜

此並引、ゲーリング / Goering / 以下政府及軍部、高官、長官間

渡ル 會議が總統官邸ニテ開催セラル事ニ依ルモノナシ

對蘇戰 既ニ決定的トナリ、其結果、確實ニ豫測セザル

春年度戰闘、歐洲諸國首相外相會議ニ依リ提示セラル

為意ニシ、此會議ニテ計畫セラル、又自今、動向が甚會議ニテ

決定セラル事ニ依リ、確力ト事ナシ

~~them~~

伯林 奔

東京宛

一九四一年十一月二十九日

第三九三號 (三部ニテ完了)

Checked by  
S. ISHIKAWA

鶴戸

(1)

私ハ  
リッペントロフ / Ribbentrop / 外相要請ニ依リ昨日夕刻彼ヲ訪問ス

ナリ居タ。併シカラ彼ハ俄カニ其時刻ヲ延期シテ夜

十時半以後ニヤット  
會見シテタ。

此、延引ハゲリシク / going / 以下政府及軍部ノ高官ノ長時間ニ

渡ル、會議ガ總統官邸ニテ開催セタ事ニ依ルモノデアツタ。

對蘇戰、既ニ決定的トナリ (其結果ハ確實ヲ豫測セザレ得ル)。

来年度戰開ハ歐洲諸國ノ首相外相會議ニ依リ提示セタ点ヲ

考慮ニ入レ、此、會議ニ於テ計畫セタ。又曰平ノ動向ガ當會議ニテ

論議セタ事又絶対ニ確カナ事デアレル。

余 | リンベントロップの會見ヲ始ムト直ク 日米交渉ニ関シ

何等カ通報ニ接シタカトソカ再ヒ尋ネタ。私ハ公式通知ニ

接シテ居大イト答ヘタ。

リンベントロップ | 日本カ此ノ機會ヲ逸スル東亞ニ新秩序ヲ遂行スル

ノハ肝要ナ事ナル。今日程ニ國同盟下ノ一段ト急接ナ協力ノ

重要ナ事トハ之道ニハナク又將來ニ恐ラクナイ。

此ノ期ニ於テ日本カ躊躇シトイフ <sup>ガ進ニテ</sup> 歐洲ノ新秩序ヲ

タレバ、英國及ビ合衆國ノ全武カハ日本ニ集中セルデアラス。

今此ヒントラー / Wilson / 總統カ在日述ベク如ク独日ト合衆國

間ニ存在 ~~ニ~~ 權利ニ根本的ニ相違カアル。

我々ハ <sup>我々ハ</sup> 合衆國カ強硬ニ態度ヲ示シテ居ルカタメ 日米交渉ハ美障ハ

締結成功ニ望ミハナイト云フ意味ノ注意ヲ受ケテ居ル。

若シ之が實際ニ事實ニシテ日中が英國及び合衆國ト戦フ決意ニ到

達スナラハソレハ独日共ニ利益ニテルミナラズ又日中自身ニ

好結果ヲモタラズモノト余ハ確信スル。

余——本意ハ何等自中ノ具伴的意圖ヲ承認セ又故明確ニ

陳述ヲシ得テハ——閣下ハ独逸ト合衆國トノ間ニ實際ノ

戦争状態ガオコセ得レド申サレルハテモカ。

リッペントロップ——ルーズベルトハ往者ニシテ、  
氣障ヒガカラ、何ヲシデカスカ  
彼行動ニ未圖ヲ

判ラナイ。  
諒シ事ハ不可能ナル。

此ノ点ニ関シリッペントロップが以テ合衆國ハ確カニドイツノ軍隊トノ

衝突ノ回避ニ努メルヲソト云フ事ヲ考ヘ又ヒソトテ最近ノ演説

及ヒリッペントロップノ演説ノ桐子カラスルニ私ハ合衆國ニ對シ

ドイツノ態度ハカチリ硬化シテ居ルト思フ。  
随分

現在に於てハドイツハ女要トアラバ合衆國ト戰ヲ辞セ又徴候カアル。

第二部

私ハ對蘇戰ノ将来ニ就テ尋ネテ。

リッペントロッグ——總統現在ハ最初彼ガ企圖シタヲモハルカソビエト

聯邦ヲ打倒スベク決ムシテ居ルト述ベテ居ル。彼ハ現在ソ聯ヲ

完全ニ掃揚スニ努ム。主事目的ハ民ガ實際ニ達成セラレドイツ

軍ハ大半カ近クドイツニ送り返サレト声明シテ居ル。

闘

之等戰事ニ引続キコーカサス戰ハ真剣ニ進メラレルデアラウ。

東春、ドイツハウラル山脈ニ進ミ之ヲ横断シスターリン (Stalin) ヲ

レバグヤ真深ク追ヒヤルデアラウ。

余——貴下ハ大角、ソレヲ何時頃ト思ハレカ。

リッペントロッグ——現在ノ計畫ニ依レバ此ノ戦闘ハ来年五月頃

進メラレル苦テアル。

對蘇戰

余

——貴下ノ言ニ從ヘバドイツハ明ラカニ中ノ戰事ニ力ヲ暗クシテ

居ル

振テアル。ドイツ滿州國間ノ空中連絡ガ早クニ確立セラル

軍ヲ我々ハ望ム。

ソソベントロシア——ソレハドイツガ暫時考慮シテ未タ問題テアル。

→ウラル地域カラ滿州國ノ空中連絡ハ来年ノ夏迄ニハ出来ト

ナイコトハナイ

信スル。

私ハ對英國本土戰ニ就テ尋ネタ所彼ハ英國本土上陸作戰前ニ

ドイツハ地中海ノ完全ニ近東・アフリカ・テララタル及地中海ノ英國

勢力ヲ一掃スルテアラウト答ヘタ。

私ハ以前よりモ此ノ地域ニ

重点カオカレテ居ルトノ印象ヲ得タ。ソコテ私ハ對英(本土)戰ヲ

遂行シヨウトシナイテ。此ノ戰事ヲ終結スルハドイツノ意圖カトウカ



尋ネヌ。

リッペントロップ。——勿論ドイツハ此ノ戰局ニ對シテハ必要ヲ準備ヲ

シテ居ル。併シナガラ英國内部テハ好調トハ限ラヌト

云フ事ヲ示ス様ニ思ハレル通知ヲドイツハ受ケテ居ル。例ハバ

保守黨勢力ノ内部ニ破綻ガアルト聞イテ居ル。テヤーチル

Churchillノ勢力ニ衰ヘンマリ、労働黨首ベツキン(Burns)

革命的方法ヲ主張シテ居ルト聞イテ居ル。之等ハ我々ノ

秩序ノ保持ノ困難ヲ増シテ居ルニ與ツテ力ガアル。

印刷指定  
改行

勿論余ハ此ノ事ヲ全部ニ信ズルモノデハナイ。併シ余ハ英國ノ情勢ハ悪ク

ナリツ、アルト思フ。之等ノ情勢ノ下ニマツテハ我々ハ英國

平土上陸作戦ヲ遂行シナクテモ、ドイツ、他ノ戰局ニ依リ

英國ガ没落スル様ニナルカモ知レヌ。

第三部

如何ナル事かアラウトモドイツハ英國ト和ヲ結ブ意圖ハ絶対ニナイ  
我々ハ歐洲カラ南テノ英國勢力ヲ除クベク決意シテ居ル  
ソレ故此ノ戦争が終レバ英國ハ國際事件ニ於テ一切勢力ヲ  
持タナイ事ニナル。

ガラウ

英國本土ハ残ルガ世界ノ其他ノ領土一切ハ惣テドイツ

合衆國及日本ニ依リニ様ニ分割セラルベクアラウ。 アフリカニ

テアラウ。

於テハドイツハ旧ドイツ植民地及アンタ地域ヲ概テ満足スル

イタリヤハアフリカ植民地ノ大半ヲ分与サレル筈ナル。

ドイツハ他ニ何ヨリモヨーロッパロシアニ支配ヲ望ニテ居ル。

終リニ臨ミ、私ハ「余ハドイツノ戦闘が計畫通りニ圓滑ニ進ムテ居

事ヲ責ハヨク存シテ居ル。

併シテカラ、ドイツが大英帝國ヲ

現實ノ敵トスルニテラス。英國勢力下ニテル月チノ諸地域及英國ヲ

援助シテタル諸國ヲ同様ニ視テ、敵トスル情勢力ニ直面スル様ニシテハ

此ノ様ナ情況下ニハ交戦地域ハ勿論相當ニ度ル事トナル。

態

此ノ様ナ事カ起ルハ戦争ノ結果ニ向テ貴下ノ意見如何ト述ヘテ。

リッペントロップ

——我々ハ明年中ニ此ノ戦争ヲ終ヘタイ。併シテカラ

事情ニ依ッテハ其次ノ年ニモ終ケラレハナラス事モアリ得ル。

若シ日本カ方ニ對テ戦争ニ入ル様ニシテハ、ドイツハ直テニソノ戦争ニ参加スル

此ノ様ナ事情、モトニテハドイツハ米國ト單獨講和スル事ハ

絶對ニアリ得ナイ。總統モソノ点ハ決意シテ居ル。

此ノ協議ヲ終ヘレニアタリ、リッペントロップ外相ハ我々會談ノ内容ハ

嚴秘ニサレタイト要請シテ。

ソレ故、此ノ事ヲ取扱ニ特ニ即配

慮サレタイ。

私ハ此、メッセーテノ寫ヲ陸軍武官野村陸軍中將(海軍中將?)  
及海軍武官阿部少將(海軍少將)ニ示シタ。

東京、陸海軍當局ニモ寫ヲ示シテイタハキタ。

(此ノメッセーテ、最初ノ部分、終ノ節ニ「合衆國ハ明ラカニ独軍ト、

衝突ノ回避」ニ努ムレテアラシ」ト書キマシタガ、ソレハ「合衆國ハ

明ラカニ戦争ノ回避」ニ努ムレテアラシ」ト讀マシタ。

二五五五六

JD-1 二九四二

メッセーテ、終卷照

(D) 海軍翻譯 一ニ一一一四一(七)

GENERAL HEADQUARTERS  
SUPREME COMMAND FOR THE ALLIED POWERS  
INTERNATIONAL PROSECUTION SECTION

*T. G. Wada*  
AUG 20 1946

20 Aug. ,1946

TC: TRANSLATION CONTROL

Attached is Document No. 2593 & 2593 B for Tavener

Arrange for translation as follows:

- a)---English-Jap. translation of Item 22 (Mark as 2593) and Item 35 (mark as 2593 B)
- b)---English-Jap. translation of certificate by Col. Clarke.

NOTE TO PROCESSING: The above certificate is to be attached to the English and Japanese of both 2593 and 2593 B.

*Completed*  
*J. Wada*

geo

(NOTE: DO NOT REMOVE FROM ATTACHED MATERIAL)

# 25-93  
D-37

~~シロ~~  
況

極秘  
東京宛

伯林宛

昭和十六年

一九四一年三月六日

紫 (CA) (至急)

カ1003号

貴電カ1048号ノカニニ關スル件

幣

一、私電カ九八五号ノカ四ニ述バタ見地カ入

カトシテハ

我々戰略的状況カ許ス迄ハソ聯トノ武力的衝

突ヲ起スカ如キ如何ナル状態ヲモ招来スル事ヲ

避ケ度イナテアル。故ニドイツ政府ヲシテ我カ

立場ヲ理解セシメ、ソクトモ現在ハ本同様ニ關スル

42593D

D-37

2

外交堂書ヲ交換スル事ヲ主張セシメザル持

彼等<sup>ニ交渉</sup>ト~~協定~~サレ度イ。

此ノ際、我が謀報網内ニ在ル地夫ヲ通過<sup>網</sup>シテ

ソ聯ニ輸送サシム米國資材ニ關スル限リ、ソレ等ハ

良質ノモノナリ、大量ヲモナイト云フ事及

我國が米國ト戦争ヲ開始スル場合ニハ、我々ハソ聯

向ケノ米國船舶<sup>ハ</sup>全部鹵獲スルト云フ事ヲ

彼等ニ成詳シク説明サレ度イ。何れモ此ノ線ニ

沿ツテ了解ニ達スル採りカサレ度イ。

ニ、然レ乍ラ、若シリツベントロツポ外相カ本件ニ對シ

我方ヨリ<sup>兵ハル可シト</sup>保証ヲ~~其ノ事~~主張スルナラバ、其ノ場合、他ニ

半段が無イ故、我方ハ原則トシテ日本領海内ヲ

# 2593D

D-37

3

經由<sup>セル</sup>米國よりソ聯<sup>ハ</sup>軍需資材<sup>ハ</sup>輸送<sup>ヲ</sup>

阻止スルト云フコトヲ表明シ、

オイ探スルト云フ趣旨<sup>ハ</sup>事<sup>ハ</sup>ヲ表明シ、<sup>シテ</sup>戰略的

理由カラ我々が~~ソ聯ヲ日本ニ戦ヒラ仕掛セナク~~

様ニ  
スル必要が引續キ存スル限リハ(此ノ意味ハ我々ハ

ソ聯船舶ヲ捕獲出来オト云フ事<sup>ハ</sup>ア<sup>ル</sup>我々ハ

シ得ザル旨ノ條文附加ヲ許ス

此ヲ定金<sup>ハ</sup>遂行<sup>ハ</sup>我々<sup>ハ</sup>

處置ニ同意センメラレ度シ。

~~軍需資材ヲ捕獲スル事ヲ用ナク~~

~~我々<sup>ハ</sup>~~

三、ドイツ政府が<sup>ハ</sup>若クハ<sup>ハ</sup>利ニ<sup>ハ</sup>同意スル事<sup>ハ</sup>ヲ拒

否シ、我々<sup>ハ</sup>戰争参加及單獨講和ヲシナイ條約

ヲ締結スル事<sup>ハ</sup>絶対條件トシテ本問題ヲ是認スル

我々トシテハ

場合ニ<sup>ハ</sup>斯<sup>レ</sup>如キ條約<sup>ハ</sup>締結ヲ延期スル外ハナイ。



#2593D

D-37

4

此ノ莫リ貴官ノ心ニ留メ置カレタシ。豫メテ。

四、我國ノ戦争参加及單獨講和ヲ締結シナイ

進ツテ更加ホスル。

ト云フ約定ノ問題ニ関シテハ、電報ニシテヤマシ。

a. 一 入手不能。

b. 一 为一部、为三部、ハ、イ、ウ、为二五五五ニ反三。

为三部ノ入手不能。

東京ニ伯林ニ回ケ、ア、カ、ロ、サ、ク、ソ、ニ国家ト

日本ト一國ニ戦争勃起ス、非常ナ危険ガアル

事及ロシアガ英軍ト提携スルハ、日本ニ

金ヲ以テ借シ敵討ス、ト云フ事ヲ通報シテ居ル。

#2593D

D-37

5

陸軍 二五九三四

陸軍 32

12/8/41 (NR)

①

Document 2593B  
~~Item 35~~

FOR REPRODUCTION

Document No.

2593 (~~Item 35~~)

Translation Section No.

IV

馬場 維

東京

一九四一

第九八

伯林 宛 貴 慶 九 八 六 號

本日午前十一時本使<sup>ANNO</sup>ハ安藤ヲ陪同シ「ハッソ

」ニ首相ヲ訪問セリ（「<sup>CIANO</sup>」外相モ同

席セリ）。本使<sup>ANNO</sup>ハ伯林 宛 貴 慶 九 八 六 號<sup>XXXX</sup>

ノ内容ニ依リ日米交渉ノ進捗狀況ヲ

述べタリ。

「ハッソ」ニ曰ク「余ハ當初ヨリ日米會談

田 翻譯

Document 2593B  
~~Item 35~~

西維馬ヨリ

東京宛

一九四一年/昭和十六年/十二月三日

第九八五號  
(Purple - CA)

伯林宛貴電九八五號ニ関スルモノ

本日午前十一時本使ハ安藤ヲ帶同シ「ハツソ

」ニ首相ヲ訪問セリ(「チアノ」外相モ同

席セリ)。本使ハ伯林宛貴電九八六號

ノ内容ニ依リ日米交渉ノ進捗狀況ヲ

述ハタリ。

「ハツソ」ニ曰ク「余ハ當初ヨリ日米會談

Chid by Akita

山田翻譯